FOREST

ographed by Shinichi Eguchi

の旋律

J4
107

FOREST

森の旋律

photographed by Shinichi Eguchi

114253

[著者紹介]

江口慎（えぐち・しんいち）……◈1953年京都・伏見に生まれる。1977年愛知県立芸術大学美術学部デザイン科卒。約10年間のサラリーマン生活の後、フリーの写真家となる。〈季節の詩〉〈光の絵・風の詩〉〈光響水彩〉〈森の旋律〉など自然をテーマとした個展を開催。全国各地の風景・花など自然を撮り続けて現在に至る。

◈著書に《水の旋律・WATER》《花の旋律・WALTZ》（クレオ）CD-ROM写真集《WATER・水の旋律》（シンフォレスト）他、多数。

◈日本写真家協会会員。

◈〈Office〉京都市左京区岡崎北御所町11-4（〒606）TEL.075-771-3837

森の旋律……◈1995年6月25日　初版第1刷発行

◈著者＝江口慎一©◈発行者＝赤平覚二◈エディトリアル・ディレクター＝赤平覚二◈デザイン＝熊谷博人◈プリンティング・ディレクター　中江一夫◈印刷・製本＝日本写真印刷株式会社◈写植＝株式会社三田綜合システム◈発行所＝株式会社クレオ〈東京都渋谷区道玄坂1-21-6〉電話03-3464-3025〈代表〉FAX.03-3464-0875振替・00120-3-539376◈©1995, Printed in Japan◈落丁・乱丁の場合はお取替えいたします◈ISBN4-906371-84-1

◈森を歩くときの、あの土から伝わる感触が何ともいえず、ただ歩いているだけで気分が深く落ち着いていく。都会の喧噪とは程遠い森閑としたその場にたたずむと、ゆっくりとした時の流れのなかで、空気そのものが凛とし、どこか神秘的な雰囲気が漂う。

◈ときおり天空から降りそそぐ木漏れ日が、仄暗い森を一変させ、はりつめていた空気を和ませる。大樹の陰で朝露に濡れる幼芽や苔や羊歯が光り輝くとき、森のあらゆる生物が、互いにいたわりあって生きる姿が浮き彫りにされていく。

◈森の魅力とは何なのだろう。眼を閉じて森の匂いを嗅いでみる。木の肌に触れ、そこに耳を押しあててみる。梢を渡る風の音、鳥のさえずり、渓流のせせらぎ、それらが、ひとつになって森の鼓動のように聞こえてくる。もうそこでは人も自然と一体となり、どんな虚栄も邪心も失せてしまう。それが森の魅力なのだと思う。

◈森に入るほどに五感が研ぎ澄まされ、いま自分が森に包まれ支えられていることが肌を通して伝わってくる。得体の知れないとてつもなく大きな、何かの存在感に、思わず背筋がぞくっとする。それは恐怖心ではなく、自然に対する畏敬の念がそうさせる。

◈森の中の、ひそやかな自然の美しさや、生命の輝きに触れるたび、心が躍る。これからも森に魅せられ、あるがままの瞬間を無垢な瞳で追い続けたい。そう思う。

著　者

カバー表＝森の旋律

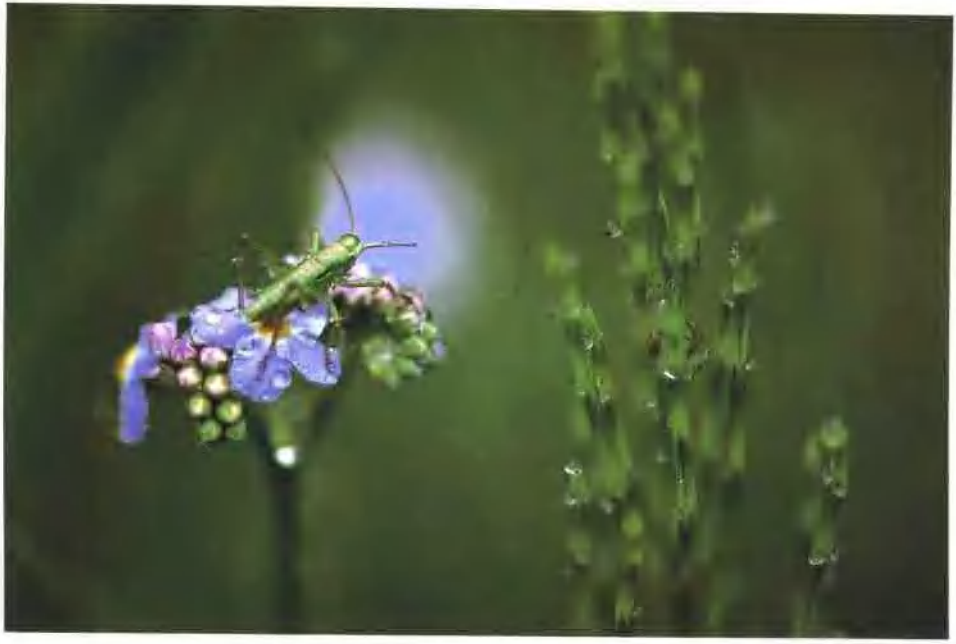
カバー裏　森の水音

本扉＝静寂の彩り

1　うららかな光の下で
2　瞑想からの目覚め
3　緑の風
4　春風の通り道
5　ひそやかな春
6　朝の静けさ
7　二重奏
8　森の精のいたずら
9　小さな愛嬌もの
10　朝寝坊
11　光の粒子
12　風のかたち
13　森の交響詩
14　樹々の舞
15　響きわたる旋律
16　森の香り
17　風の調べ
18　季節の手紙
19　光と風の詩
20　カーテンコール
21　清楚な眠り
22　ひとこまの情景
23　やすらぎのベール
24　レクイエム
25　綾れ織り
26　光の水彩画
27　森の主人公
28　待ちわびる心
29　ぬくもり
30　おとずれた静寂
31　コンチェルト
32　うつろいの中で
33　白昼夢
34　パーミリオンの風
35　印象派のモチーフ
36　シルエット
37　錦繡のころ
38　黄色の静けさ
39　冬言葉
40　終楽章
41　光のシンフォニー
42　冬枯れの光彩
43　眠りについた光
44　森閑とした空間
45　樹々たちのため息
46　光芒の森
47　静止した時の流れ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com